



顧客の要求への対応能力の高さで マンション向けドアの有力企業に

株式会社田代製作所 代表取締役 山内鉄也氏

襖の製造からスタートし、世の中の住環境の洋風化に合わせてマンション向けドアのメーカーに移行。首都圏市場の3割のシェアを占める国内上位の出荷量を誇る。リーマン・ショックの影響から抜け出し独自製品開発を軸に第二創業期に踏み出した山内鉄也社長にお話を伺った。

マンション向けドアのメーカーとして国内有数の出荷量を誇る

当社の創業者は地元の旧田代町出身で、埼玉県で襖の製造をしていました。大館市(旧田代町)の誘致企業として昭和63年に現在地に進出し、当初は引き続き襖を製造していましたが、住空間の洋風化が進んできたため、平成2年からマンションや大手ハウスメーカー向けの洋室ドアの製造販売に切り替えました。マンションブームも事業転換を後押しする形になりました。

現在は主に首都圏の新築マンション向けのドアを製造出荷しています。首都圏では3割ほどのシェアを持っているので、事実上国内でも上位のマンション向けドアのメーカーであると認識しています。

この業界も5年前のリーマン・ショックでは大きなダメージを受けました。それまでは170名の従業員で日産一千本のドアを生産していましたが、マンション新築戸数の漸減に伴っ

て、現在は従業員140名、日産800本前後で推移しています。

リーマン以前は業績も好調だったため、やや漫然とした経営になっていたというのが今になっての反省点であり、当社のウィークポイントだと思っています。

自社開発特許技術を起爆剤にして第二創業期の事業展開を目指す

しばらくは同業他社との差別化や独自色も打ち出せずにいましたが、手をこまねいているわけにもいかないので、3年ほど前から、従来品よりも高級感のあるドアを生み出す「Vカット工法」という製造技術の確立に力を注ぎ、特許を申請することができました。

一般にマンション向けドアは施工側から出された設計デザインに我々が忠実に製造して納入するというパターンなのですが、我々から提案した製品に目新しさがあれば採用されることも

あり、Vカット工法の製品の出荷本数は増えつつあります。現在の当社のドアの日産800本のうち200本はVカット工法の製品です。マンションの着工戸数も微増に転じつつあるので、今を当社の第二創業期と位置づけて、これから先の事業展開を模索していきたいと考えています。

より良い品質の製品をいかに短い納期で納入できるかが勝負どころになると思っています。幸い、工場は東北自動車道の十和田ICに近く、夕方工場から出荷すれば翌朝には首都圏の建設現場に入れるのも地の利だと思っています。4トントラックにドアを200枚積んで運ぶので、1枚あたりにすると輸送コストもカバーできる範囲に収まります。

モチベーションの高い社員と共に景気に左右されない盤石な企業へ

従業員のモチベーションが高いのも当社が誇っていることだと思っています。納期を厳守するという意識が強く、社命を待つまでもなく自主的に残業をこなしてくれることも少なくありません。土曜日に出勤してもらうこともあります。そんな従業員の就労意欲に応えるべく、出

産子育てのために退職した女性従業員に復職の希望があれば対応するようにしています。

私は当社の関東営業所長として長年勤めてきましたが、7年前に創業家二代目社長が急逝したため、三代目社長として経営を引き継ぐことになりました。営業の現場から製造の現場に移ってきたので勝手の分からないこともあったのですが、Vカット工法製品に次ぐ第二第三の新機軸製品を生み出し、好不況に左右されない盤石な企業に育てていきたいと思っています。

株式会社田代製作所
〒018-3593
大館市岩瀬字大柳上野28-1
Tel.0186-47-3333
Fax.0186-47-3000
<http://www.tashiro-ss.co.jp/>

自動機の工程はドア一枚ごとに数値を入力しての作業になる。



- A. 質感の高いSライン建具シリーズのVカット工法は特許を申請している。
- B. 集合住宅用ドアは同じ棟でも部屋ごとに寸法が異なる場合が多い。
- C. 工場の一角には製品の耐久性や強度を検査する実験室がある。
- D. 操業で出た木屑をボイラー燃料にして工場のスチーム暖房に活用している。
- E. 工程が多岐にわたるため工場の棟も多い。
- F. 山内社長は関東営業所長だったが先代社長の逝去に伴い7年前に社長に就任した。

